相模原市立大野小学校

学校だより

〈学校教育目標〉
・元気な子　深く考える子
　思いやりのある子　進んで働く子

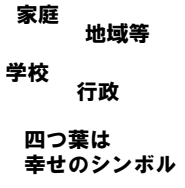
〈本年度重点〉
・一人一人が輝く学校をめざして

校長　浅野　宏　　令和４年４月２８日発行

いじめ防止月間

緑が眩しい季節になりました。また、運動会の練習も始まっています。子どもたちはそれぞれのめあてに向かって取り組んでいます。寒暖の差が激しい季節でもありますので、体調管理にお気をつけください。朝の検温・健康観察、マスク、ハンカチを忘れずに登校させてください。よろしくお願いします。

相模原市では、「わたしも　あなたも　た・か・ら・も・の」をスローガンに５月と１１月を「いじめ防止月間」としています。子どもたちとあいさつを交わしながら、みんなの顔が見える関係を作って行きたいと思います。学校ではあいさつ運動はじめ児童の様子の把握、学級の状態の点検など様々な取り組みをします。



ある資料では「いじめ」と見られる場面を次のように分けて捉えています。

①冷やかしやからかい、悪口や脅し文句を言われる
②軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたりする
③仲間はずれ、集団による無視をされる
④嫌なことや恥ずかしいことを、危険なことをされたり、させられたりする
⑤パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷される
⑥金品をたかられたり、持ち物を隠されたり、壊されたりする
⑦ひどくぶつかられたり、叩かれたりする

こうした行動は、学校だけでなく子どもの生活すべての中で起こりうることです。①や②は子どもなら誰にでも経験があることだとは思いますが、このことがいじめに繋がることだとは思っていないと思います。しかし、そのことが相手に対して肉体的･精神的に苦しめていればまさにいじめなのです。ある調査によると、小中学生の８割以上の子どもがいじめの被害者にはもちろんのこと、加害者にもなっている実態が明らかにされています。

原因については様々ありますが、対人関係の不得手・欲求不満耐性の欠如・思いやりの欠如・成就感、満足感を得る機会の減少などがあげられています。

叱られてばかりいたり、できないことが多かったりすると、自分はだめな人間なんだと思ってしまいます。それなので、予防するにはまず「周りの人から認められる・ほめられる」経験をたくさんもつことです。自己肯定感や自分は役に立つ人間なんだという自己有用感が大切です。また、いろいろな年齢、立場の人(同級生・他学年・先生・家族・地域の人)から見られていることも気持ちを抑えることにもなりますし、自分の良いところを認めてもらえるチャンスが広がることにもなります。朝の挨拶からいろいろな人と関わることも大切です。

学校では、講話集会や生活目標の話の中でいじめ防止を訴えていきたいと思います。また、児童会を中心としたあいさつ運動もさらに充実させたいと思っています。

互いの良さを認め合い、仲良く助け合える仲間がたくさんいる大野小学校になってほしいと願っています。

学力・学習状況調査・学びの調査

１９日（火）に４～６年生を対象に行われました。

６年生は、文部科学省による調査です。４・５年生は、相模原市が行っているものです。４・５年生も調査を行うことにより、学校における子どもたちへの教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的として行いました。